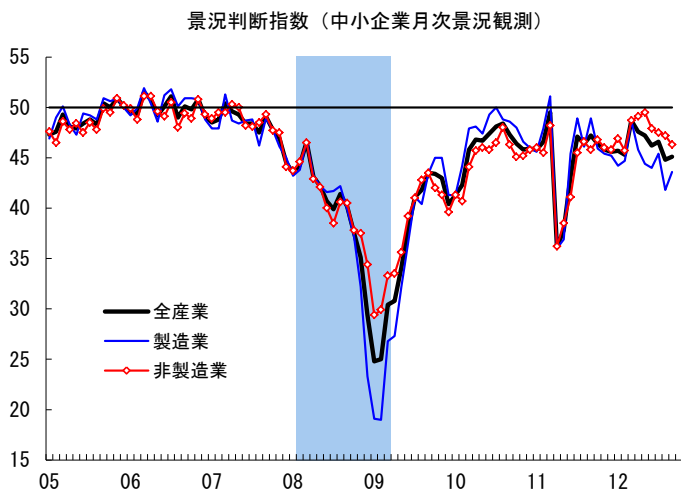


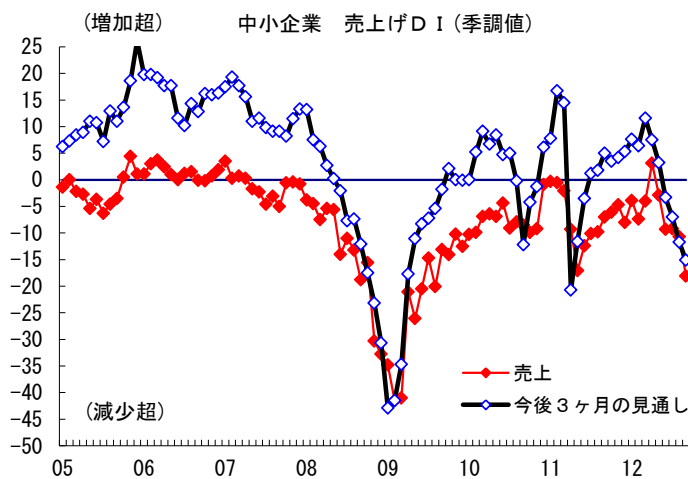
指標名：中小企業の業況(2012年9月)

発表日2012年9月25日(火)

～景況感は単月では改善も基調としては弱含み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

(出所) 商工中金「中小企業月次景況観測」



(出所) 日本政策金融公庫「中小企業景況調査」

(注) D I = (増加-減少)企業割合

○景況判断指数：これまで牽引役であった非製造業も足元弱含み

商工中金から公表された9月の「中小企業月次景況観測」(調査時点：9月上旬)の景況判断指数(1000社調査、以下、景況指数)は、全産業で45.1(8月：44.8)と上昇した。単月では上昇したものの、前月の落ち込みからの戻りは小幅なものにとどまっており、依然基調としては弱い。海外(特に中国)からの需要の回復が遅れていることに加え、これまで堅調であった国内消費にも陰りが窺えることが影響していると考えられる。また、これまで非製造業は内需の堅調さを背景に好調さを維持してきたが、足元では4ヶ月連続で低下している。自動車販売がエコカー補助金の終了前にすでにピークアウトしたことに加え、自動車以外の国内消費にも減速感が窺えることが背景にあるものとみられる。

日本政策金融公庫から公表された「中小企業景況調査」(調査時点：9月中旬)の売上げD I (季節調整値)は▲18.1(8月：▲10.7)と低下した。これで2ヶ月連続での低下であり、今月は低下幅も大きい。売上げD Iは5月までは底堅い推移を保っていたが、足元では低下傾向にある。水準としても、9月は東日本大震災後の水準を下回る弱い結果である。売上げD Iを最終需要分野別にみると、食生活関連が底堅さを保つ一方でこれまで好調さを保っていた衣生活関連は見通しを含めて弱い動きとなっており、国内消費の陰りを窺わせる。また、景気の先行き不透明感から設備投資関連が引き続き低調な推移となっていることに加え、外需の弱さやエコカー補助金の終了が意識されたことを背景に乗用車関連は震災後の水準と同程度まで落ち込んでおり、弱さが目立つ。

○当面は外需の弱さとエコカー補助金制度の終了が重石に

10月の景況指数は製造業は46.1(9月実績：45.1)、非製造業は48.0(9月実績：46.3)と、ともに上昇が見込まれている。ただし、海外経済の回復が遅れていることに加え、9月21日にエコカー補助金制度が終了した影響が今後どの程度表れてくるかが懸念される。自動車以外の消費にも陰りが窺えることも気がかりだ。復興関連の公共投資は今後も堅調に推移するとみられるが、それだけで中小企業全体の景況感を支

